

津波について

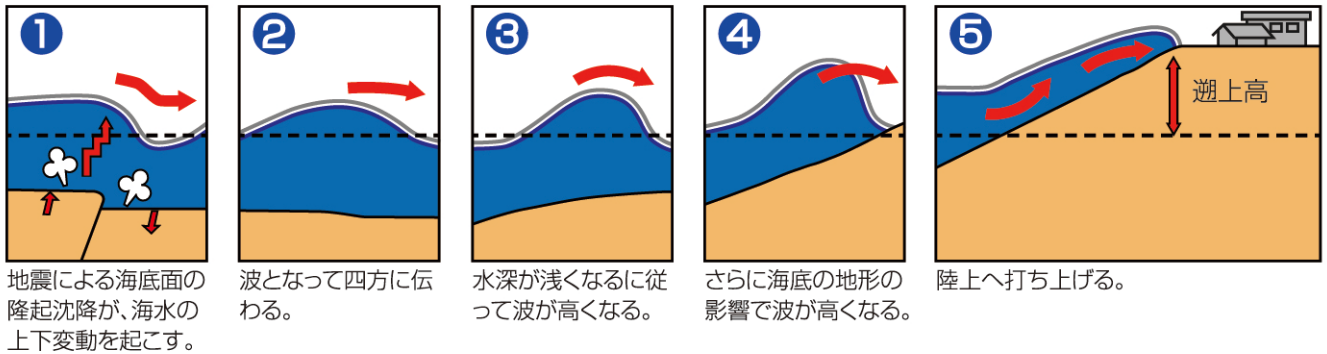
津波による災害の発生が予測される場合には、地震発生後約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報が気象庁から発表され、次に予想される津波の高さや津波の到着予想時刻などが発表されます。

	予想される津波の高さ		想定される被害
	数値での発表(発表基準)	巨大地震の場合の発表	
大津波警報 (特別警報)	10m越(10m<高さ) 10m(5m<高さ≤10m) 5m(3m<高さ≤5m)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。
津波警報	3m(1m<高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。
津波注意報	1m(20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は早い流れに巻き込まれます。養殖いかだが流出し小型船舶が転覆します。

地震発生後、予想される津波の高さが20cm未満で被害の心配がない場合、または津波注意報の解除後も海面変動が持続する場合には、「津波予報(着干の海面変動)」を発表します。

津波はどのように襲ってくるか

海底で起きた地震が原因で、海水が陸地に押し寄せる現象を津波といいます。



- 気象庁が発表する「津波の高さ」とは、海岸付近の海面がどのくらい高くなるかをいいます。
- 津波が、海岸を駆け登ることを遡上といい、ときには数十メートルに及ぶことがあります。この高さを遡上高といいます。

津波はこんなところに注意！

1 深海ではジェット機並みの速さ！

津波の速さは海が深いほど早く、津波が太平洋を伝わる速さは、ジェット機並みにもなります。海岸近くでも秒速10m程度の速さなので、津波が見えてからではとても逃げきれません。

3 引き潮がなくても津波は襲ってくる

津波の前に、引き潮が必ずあるとは限りません。地震の起こり方や震源付近の地形によっては、引き潮が起らないこともある。

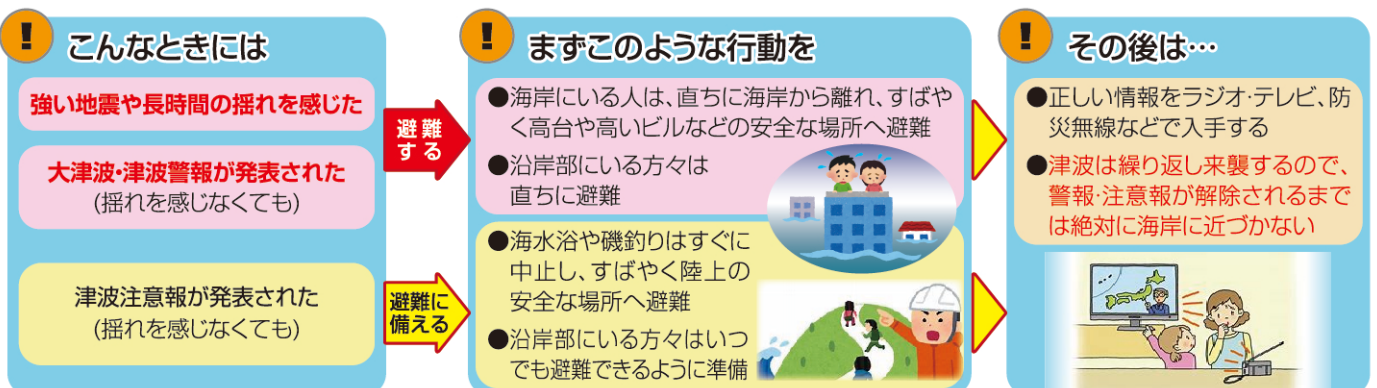
2 津波の高さは想像を超える！

津波の高さは海岸の地形などに大きく左右されます。東日本大震災では、岩手県宮古市重茂半島姉吉地区で38.9m(ビル3F相当)の津波の跡が確認されています。

4 津波は繰り返し襲ってくる

津波は2回、3回と繰り返し襲ってきます。1回目でも安心しないこと。波が落ち着くまで注意し、警報・注意報が解除されるまで海岸に近づかないようにしましょう。

津波からの避難行動



津波ハザードマップ

この津波ハザードマップは佐賀県が作成したもので、小城市芦刈海岸に影響を及ぼすとされる、2つの各想定地震による最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に、想定される浸水の区域(浸水域)と水深(浸水深)を表したものです。各想定地震による最高津波水位及び到達時間は以下の通りです。

- 南海トラフの巨大地震(海岸影響開始時間269分、最高津波水位3.1m、最大津波到達時間は290分)
- 雲仙地溝南縁東部断層帯と西部断層帯の連動地震(海岸影響開始時間70分、最高津波水位3.1m、最高津波到達時間は191分)

※地盤の低いところでは、地震によって、堤防が沈下・破壊することで、津波が到達する前に浸水が始まることがあります。津波の到達時間に係らず、早めの避難行動を心掛けてください。

【留意事項】

- 実際の地震発生時には、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
- 浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
- 津波は繰り返し襲います。浸水域・浸水深は津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。
- 規模の大きな河川での津波遡上・浸水を見込んだ浸水域と浸水深となっています。

